

「何になるか」より「どう関わるか」

自分だけの“役割”を見つける

キャリア構造ガイド



AIキャリア分析

## 1. はじめに: 表面的な「職業名」というラベルを剥がしてみる

進路や将来を考えると、私たちはつい「公務員になりたい」「エンジニアになりたい」といった職業名(何になるか)をゴールに設定してしまいがちです。

しかし、職業名という「ラベル」に自分を合わせようとする、理想と現実のギャップに苦しんだり、時代の変化の中で「自分は何者なのか」と迷う原因になることもあります。

実は、職業名というのは、あなたの本質を包む「器」に過ぎません。

本当に大切なのは、その仕事を通じて社会や物事に対して「どう関わるか(役割)」という、目に見えない動きの質を見極めることです。

本ドキュメントは、表面的なラベルを剥がし、あなたの過去から「自分らしい役割」を見つけ出すための地図です。

まずは、「職業名」と「役割」の違いを整理してみましょう。

視点	職業名(何になるか)	役割(どう関わるか)
性質	社会的な肩書き、ラベル	物事への関わり方、質の連続性
焦点	「どこに所属するか」という器	「どんな動きをするか」という中身
変化	社会情勢や転職で変わりやすい	環境が変わっても繰り返される強み
納得感	他人に説明しやすい	自分の心が「しっくり」くる

あなたの過去は、一見バラバラな経験の集まりに見えるかもしれませんが。

しかし、それらを一本の糸でつなぐ「共通の役割」が必ず隠れています。

ある物語を例に、その糸を解き明かしてみましょう。

## 2. ケーススタディ:「八百屋の荷運び」と「システムのテスト」の意外な共通点

学生時代の「八百屋でのアルバイト」と、社会人になってからの「道路交通情報のシステム開発」。

一方は市場からトラックへ野菜を積み込み、配達先へ運ぶ肉体労働。

もう一方は道路上の情報板や速度規制標識が正しく動くかを検証する頭脳労働です。

全く別物に見えますが、これらを「構造」という視点で眺めると、ある共通の役割が浮かび上がります。

それは\*\*「流れを止めない(滞りを取り除く)」\*\*という役割です。

- 物理的な流れを整える: 市場からトラック、そして食卓へ。「品物」という物理的な流れが滞らないよう、荷詰めや配達で現場を支える。
- 情報の流れを整える: 道路上の情報板に正しいデータが表示されるよう、システムテストや現地調整で「情報」の滞り(バグ)を徹底的に取り除く。
- 摩擦をなくし、接続する: 配達先でのやり取りも、客先へのシステム説明も、作り手と受け手の間にある摩擦をなくし、スムーズに「つなぐ」作業である。

重い野菜を運ぶことも、複雑なデータを整理することも、本質的には「全体の流れをスムーズにする」という同じ目的を持っています。

このように自分の役割を定義できると、体力の変化や環境の変化(例えば、手術後の身体的な制約など)があっても、形を変えてその強みを発揮し続けることができるのです。

一見バラバラな経験を一本の糸でつなぐのが「構造的視点」です。

次に、あなたの歩みがどのようにスケールアップしてきたかを見ていきましょう。

### 3. キャリアを「流れ」として捉える3つの階層

キャリアの進展は、単なる履歴書の更新ではなく、自分が関わる対象の「スケール（大きさ）」が広がっていくプロセスです。

これを3つの階層で整理すると、自分の現在地が明確になります。

第1階層：部分（現場の要素を支える）

- 定義：目の前にある具体的な作業、現場の末端を支える役割。
- 具体例：八百屋での荷運び、レストランの皿洗い、アルミ製品の梱包など。まずは「現場という流れの一点」を確実に機能させる段階です。

第2階層：構造（仕組みの内側を扱う）

- 定義：個別の作業を超えて、システムや情報の「つながり」を設計・制御する役割。
- 具体例：自社製品のSE業務、ソフトウェア設計、データベース化。目に見えない「情報のルール」を整え、仕組みを動かす段階です。

第3階層：全体構造（複数の要素を統合する）

- 定義：技術、人、お金、空間など、異なる要素を組み合わせる一つの大きな流れを作る役割。
- 具体例：飲食店の共同経営。事業計画から調理、接客、看板犬のいる空間作りまで、すべてを統合して「店舗という構造」を回す段階です。

現在は、さらにこの先の「抽象構造（経験そのものの意味をデザインする）」というフェーズへ向かおうとしています。

自分が今どのスケールで流れに関わっているかを知ること、次の一歩が見えてきます。

では、あなたの中に繰り返し現れる「得意なポジション」を特定してみましょう。

## 4. あなたの中に隠れた「3つの得意なポジション」

過去の経験を振り返ると、あなたが無意識に選んでいる「立ち位置」があるはずです。

これらは「フロー(流れ)の守護者」としてのあなたの強みです。

1. 構造を理解して扱う「フロー・アーキテクト」
  - 複雑な仕組みを俯瞰して捉え、「どうすれば正しく機能するか」という設計図を把握するのが得意です。
  - ベネフィット: 混乱した状況でも「何が問題で、どう整理すべきか」を即座に判断できるため、設計者として絶大な信頼を得られます。
2. 間をつなぐ「ブリッジ・コーディネーター」
  - 専門技術と利用者、営業と開発など、異なる立場の人々の間に立って情報の翻訳と調整を行います。
  - ベネフィット: 認識のズレという「情報の滞り」を解消し、プロジェクトをスムーズに完結させる潤滑油として重宝されます。
3. 見えない部分を整える「バックエンド・サポーター」
  - データ整理、障害対応、業務改善など、放っておくと詰まってしまう「裏側の仕組み」をメンテナンスします。
  - ベネフィット: 「当たり前」が維持される安心感を提供し、組織の土台を盤石にすることができます。

これらの役割は、あなたが意識しなくても自然に発揮してしまう「資質」です。

しかし、この強みが発揮できない場所では、強い「違和感」が生じることとなります。

## 5. 心地よい働き方を見つけるための「違和感」の読み解き方

仕事をしていて「嫌だ」「苦しい」と感じる瞬間。それは単なるわがままではなく、あなたの心が持つ「高精度な構造センサー」が反応している証拠です。

論理が通っていなかったり、流れが乱れていたりするとき、あなたのセンサーは警告を發します。

その違和感をポジティブな「判断軸」に変換してみましょう。

嫌だと感じること(違和感)	その裏にある本当の判断軸(構造的意味)
指示通りの作業しかできない	裁量と関与: 自分が構造の一部として判断を下したい
学歴や年功序列による不合理な格差	論理的正当性: 筋の通った評価構造の中にいたい
職場での私語が多く統制がない	環境の秩序: ノイズを排し、純粋に流れを整えることに集中したい
言っていることが二転三転する	一貫性: 崩れない論理構造の上で動きたい

「指示待ち」や「不条理」にストレスを感じるのは、あなたが「全体を俯瞰し、自分の判断で流れを最適化したい」という設計者としての誇りを持っているからです。

違和感は、あなたが本来いるべき場所を教えてくれる羅針盤なのです。

## 6. おわりに: 人生という「構造」をデザインし続ける

キャリアとは、「どこかの会社に入る」ことで完成するパズルではなく、自分の「役割」が最も活きる「流れ」を探し、整え続けるデザインのプロセスです。

たとえ体調や環境に変化があっても、あなたの「構造を読み解き、滞りを取り除く」という役割そのものが消えることはありません。

これからのキャリアを自分らしく描いていくために、以下の3つの黄金律を大切にしてください。

- 職業名(ラベル)で選ばない: 自分がその仕事で「どんな流れに関わる役割」を担うのか、構造レベルで確認する。
- 「違和感」を情報の宝庫とする: 嫌だと感じたときは、自分のどの「判断軸(論理や秩序)」が反応したのかを分析する。
- 関わるスケールを意識する: 「今は一つのパーツを直しているのか、それともシステム全体を設計しているのか」を自問する。

「何になるか」という正解を外に探す必要はありません。

あなたがこれまで大切にしてきた「筋を通すこと」や「流れを整えること」の中に、すでに答えは隠れています。

自分の役割が活きる場所を、あなた自身の意志でデザインしていきましょう。

その旅を、心から応援しています。



# AI キャリア分析